

令和8年1月20日
埼玉県教育局
地域学校協働活動実践交流会

持続可能な地域学校協働活動の実現に向けて

竹原和泉
NPO法人まちと学校のみらい代表理事
文部科学省総合教育政策局CS推進名誉マイスター



Why

なぜ学校と地域が連携・協働するのか

What

どのような仕組みですすめるのか

How

•たとえば、どんな動きがあるのか

地域とともにある学校運営

学校運営協議会

学校運営について協議

協議に基づいて
アクション

Plan

Do

地域

学校

地域とともにある
学校運営

地域学校協働活動

学校運営

カリキュラム

児童・生徒指導

Act

Check

学校評価

学校の自己評価

学校関係者評価

これからのコミュニティ・スクール

第2ステージ・2つのポイント


1 学校運営について熟議し・共に責任を持ち
それぞれの立場で動く

2 「社会に開かれた教育課程」

実現のために地域学校協働活動につなげる

みんなで熟議し、最善策を考えた事例

① 学校運営

- 修学旅行をどうする？
- 4年生の宿泊体験が負担・・・
- 不登校が増えている・・・
- 

熟議の
ススめ

子どもを主語に熟議をしよう！

神奈川県立あおば支援学校

2023年8月25日 学校運営協議会委員＋教職員＋保護者 140名



- **切れ目ない支援部会**
「卒業後のスムーズな移行について考えよう」
- **地域連携部会**
「子どもの安全・安心を考えよう」
キーワード「生活安全」「交通安全」「災害安全」
- **地域学校協働部会**
「カリキュラムの充実とスリム化」



誰もが自分ごとになり
一体感が生まれ
次の一步につながった

子どもが参画する熟議

コミュニティ・スクールで育った子どもたちが
コミュニティ・スクールを語り、**熟議**で課題解決
(山口県光市・愛媛県新居浜市の4中学校生徒会交流)

熟議・テーマ「SNSとの付き合い方」



それぞれの学校にもどり、さらに熟議すすめる

② 子どもの学び

“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”
という目標を学校と社会が共有し連携・協働しながら
新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む
「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、
学習指導要領等が学校、家庭、地域の関係者が
幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割
を果たす。

小学校学習指導要領 総則編 （平成29 年7 月）

錦帯橋を学ぶ

山口県岩国市



地域と学校でカリキュラムを見直した

岩手県

大槌学園



大槌学園

地域と連携・協働した9年間の学び

メンバー ()

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校行事	入学式	体育祭 運動会	中校体(地)	中校体(果)	夏季休業	新人戦 総練習外	学園祭	芸術会	冬季休業	式典		卒業式
小1									「あそび」			つねねり 団体作り
小2									町たんけん			
小3			山採校	海採校						郷土芸能		
小4			キャッスル 認知症									
小5			日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習	日産の学習
小6												
中1												
中2												
中3												
地域行事	バザー		七夕祭り	盆踊大会	防災訓練						餅つき大 会	マラソン 大会

大槌祭り 避難訓練

©NPO 法人まちと学校のまいらい

9年間の子どもの学びを考えよう！

カリキュラム表を見て気づいたこと

これからも大切にしたい学び

中学校
に比べて
1つの
整理され
ている

小種類
が多く単発
的

小中合同
行事
知恵
活用
活用

3月に
何かは
大変!

地理的
なつながり
少ない?

わか
3月の入試
卒業式に
あつた

フィッシャー
リー
藻場再生
広めたい

海の学習
もう少し体
験を自由
にしたり

郷土
芸能

海水浴

二つの差
能も体験し
ているのは
吉里だけ!!

課題

こんな宝もあるのでは?
こんなこともやってみよう!

小里科
自然に左右
される

ポテンシャル
高齢化

先生の異動
引継ぎ大変

体験活動
2月に集中!!

昨年
7月
7月

史跡めぐり
がある

写真会
かみ
(海)

遠足は
鯨山登山

林業

釣り

新潟県 上越市 視覚的カリキュラム



視覚的カリキュラム表

春日小学校では、生活科・総合的な学習の時間と他教科・領域との関連を図り、双方の指導の効果を高めるために「視覚的カリキュラム表」を活用しています。



「視覚的カリキュラム表」は、4月、8月、2月の3回にわたって検討し、子どもの関心や課題意識に合わせてその都度修正していきます。このカリキュラムの検討会には、学校運営協議会の方々にも参加していただき、具体的な実践上のアドバイスをいただいています。



対象学校の校長は、当該対象学校の運営に関して、**教育課程の編成**その他教育委員会規則で定める事項について基本的な方針を作成し、当該対象学校の**学校運営協議会の承認**を得なければならない。

地教行法第47の5

持続可能な地域学校協働活動の実現に向けて

◆地域学校協働活動のWHYを忘れない

子どもを主語に、学校も地域も、それぞれの立場・強みを活かし動く

◆待つこと、聴くことを大切に

情報共有→ミッションの共有→アクションの共有→小さな成功体験の共有

◆当事者性を高める

そのためにも「熟議」を重ねよう

◆大人の学びと協働力が求められている

アップデートし、チームになる



誰かが何とかしてくれる、のではなく、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていく。子供たちのために学校を良くしたい、元気な地域を創りたい、そんな「志」が集まる学校、地域が創られ、そこから、子供たちが自己実現や地域貢献など、志を果たしていける未来こそ、これからの未来の姿である。

新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた
学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)
平成27年12月21日 中央教育審議会